

□主な内容

【令和 7 年度「『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」(「交通空白」解消緊急対策事業・共創モデル実証運行事業・モビリティ人材育成事業)の公募開始】

国土交通省は、全国的な MaaS の推進を目的として、令和 7 年度「『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」(「交通空白」解消緊急対策事業・共創モデル実証運行事業・モビリティ人材育成事業)の公募を開始しました。公募期間は 2025 年 4 月 7 日までです。

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000415.html

【「地域公共交通利便増進事業」の実施計画を認定】

東北運輸局は、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、五所川原市、いわき市において「地域公共交通利便増進実施計画」を認定しました。

<https://www.tbmilit.go.jp/tohoku/content/000343921.pdf>

□目次

1. ニュース／トピックス

- 「交通空白」解消や地域の多様な関係者の「共創」による地域交通の維持・活性化の取組等を支援します！ ～令和7年度「『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」(「交通空白」解消緊急対策事業・共創モデル実証運行事業・モビリティ人材育成事業)の公募開始について～【国土交通省】
- 自動運転に資する路車協調システムおよび走行空間の実証実験について ～14自治体で技術基準等策定に必要な検証を実施～【国土交通省】
- 共同輸配送や帰り荷確保等のためのデータ連携促進支援事業費補助金に係る執行団体の公募について【国土交通省】
- 自動配送ロボットの将来像を取りまとめました 配送能力の向上による社会課題解決を目指します【経済産業省】
- 船舶へのモーダルシフト推進にご活用ください ～中・長距離フェリー、RORO船及び内航コンテナ船に係る積載率動向について～【国土交通省】
- 「地域公共交通利便増進事業」の実施計画を認定 ～利便性・持続可能性の高い地域公共交通を目指して～【東北運輸局】
- 「持続可能な地域公共交通の推進に向けた連携協定」を締結しました【安平町、CICAC】

- AI オンデマンド交通「のーと玄海」本格運行開始【玄海町、ネクスト・モビリティ】
- 「横浜市シェアサイクル事業の実施に向けた協働事業」の協定を締結【横浜市、ドコモ・バイクシェア、OpenStreet】
- AI や自動運転などを活用した「交通・環境課題解決へ向けた技術実証実験に関する共同研究契約」を締結【芳賀町、本田技研】
- EV を活用し脱炭素化実現と災害に強い持続可能なまちづくりに向け共創【輪之内町、日産、岐阜日産、ヨロズ、YSMC】
- 全国初のライドシェアドライバーによる貨客混載実証事業を開始しました【加賀市、Uber Japan、日本郵便】
- 大阪・関西万博の会場にドコモ・バイクシェアのサイクルポートを設置【ドコモ・バイクシェア】
- 「シェア乗りタクシー」に新機能『新幹線タクシー予約』を搭載 ～ターミナル駅を起点にした二次交通も担うための「シェア乗りタクシー」のサービスアップデート～【NearMe】
- 進化したドライバーレス自動運転実験車の走行を公開 ～モビリティサービスの事業化に向けて推進を加速～【日産】
- 西新宿エリアの回遊性と利便性向上に向け、「自動運転車とマルチモーダル経路検索サービスの連携によるワンストップ予約」実証実験を実施【新宿副都心エリア環境改善委員会、ジョルダン、三菱電機】
- 次世代交通システムの実用化に関する連携協定を締結しました ～交通渋滞や移動手段の脱炭素化などの社会課題解決に向けた取組みを推進～【Zip Infrastructure、九州電力】
- 鉄道ネットワークを活用した荷物輸送サービス「はこビュン」を事業化し様々な社会課題解決に貢献します ～新幹線荷物専用車両による高速・大口輸送を実現します～【JR 東日本】
- 自動運転トラック実証実験向け合流支援情報提供システムを納入 本線の車両走行情報をセンサーで加速車線の前段階から提供、安全・円滑な合流を支援【国土交通省、国総研、NEXCO 中日本、三菱重工、MHI-MS】
- 自動運転 2.0 の実現に向けて Plus と提携 ～トラック領域の自動運転レベル 4 から協業開始～【ティアフォー、Plus】
- 自動運転トラックによる菓子、加工食品の幹線輸送の共同検証開始 ～おいしさを自動運転で届ける！ 菓子と加工食品のプロジェクト～【江崎グリコ、キューピー、キューソー流通システム、T2】
- 完全 CO₂ フリーの医薬品輸送の電動化を推進【三菱倉庫、三菱商事、ユアスタンド】
- 中部国際空港セントレアの制限区域内にて高精度 3 次元地図データ(HD マップ)を搭載した自動運転車両の実証実験を開始【ダイナミックマッププラットフォーム、中部国際空港、ティアフォー】
- 日ASEANグリーンシップ政府間会合・官民セミナーを開催しました ～ASEAN地域における低環境負荷船の普及を促進～【国土交通省】

2. イベント情報

- JR 志布志駅開業 100 周年記念イベント【2025/3/30】
- 常磐線旧線隧道探検ツアー【2025/4/26】
- グランシップトレインフェスタ 2025【2025/5/17-18】
- 京急ファミリー鉄道フェスタ 2025【2025/5/18】

3. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

1. ニュース／トピックス

●「交通空白」解消や地域の多様な関係者の「共創」による地域交通の維持・活性化の取組等を支援します！ ～令和7年度「『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」（「交通空白」解消緊急対策事業・共創モデル実証運行事業・モビリティ人材育成事業）の公募開始について～【国土交通省】

国土交通省は、全国の「地域の足」「観光の足」を確保するための「交通空白」の解消に向けた取組みや、地域の多様な関係者の「共創」により、地域交通の利便性・生産性・持続可能性を高める取組み、さらには地域公共交通計画の策定・アップデート等を広域的に推し進める人材の育成を後押しするため、2025 年度の「『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」（「交通空白」解消緊急対策事業・共創モデル実証運行事業・モビリティ人材育成事業）の公募を開始しました。公募期間は、4 月 7 日までです。

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000415.html

●自動運転に資する路車協調システムおよび走行空間の実証実験について ～14 自治体で技術基準等策定に必要な検証を実施～【国土交通省】

国土交通省は、2024 年 12 月 18 日から 2025 年 1 月 22 日まで公募を行った路車協調システム及び走行空間の技術的検証を目的とした自動運転実証実験について、14 自治体で実施することを決定しました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001891.html

●共同輸配送や帰り荷確保等のためのデータ連携促進支援事業費補助金に係る執行団体の公募について【国土交通省】

国土交通省は、「共同輸配送や帰り荷確保等のためのデータ連携促進支援事業費補助金」の交付事務を行う事業者（執行団体）の公募を開始しました。公募期間は、3 月 31 日までです。

本公募は、「物流情報標準ガイドライン」を活用して共同輸配送や帰り荷の確保、配車・運行管理の高度化等の物流効率化を図るために、複数の荷主企業や物流事業者、物流ソリューション提供者等が連携して「物流・商流情報のオープンプラットフォーム」の構築や運営を行う事業に要する経費の一部を補助する事業に対し、補助金を交付することにより、物流データの標準化を推進し、物流 DX や新たな物流ソリューションの創発を促進するものです。

https://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000859.html

●自動配送ロボットの将来像を取りまとめました 配送能力の向上による社会課題解決を目指します【経済産業省】

経済産業省は、物流分野における人手不足等の課題解決を目指し、自動配送ロボットの社会実装に向けた取組みを行っており、2024 年 7 月に立ち上げた「より配送能力の高い自動配送ロボットの社会実装検討ワーキング・グループ」において有識者や事業者と議論を重ね、目指すべき姿や、社会実装に向けたロードマップについて取りまとめました。

WG では、主に期待されるユースケース、産業界が求めるロボットの仕様と運用、社会実装に向けたロードマップについて、有識者と事業者の意見を取りまとめました。

<https://www.meti.go.jp/press/2024/02/20250226002/20250226002.html>

●船舶へのモーダルシフト推進にご活用ください ～中・長距離フェリー、RORO船及び内航コンテナ船に係る積載率動向について～【国土交通省】

国土交通省は、中・長距離フェリー、RORO 船及び内航コンテナ船に係る積載率の動向（2024 年 10～12 月実績）を調査したので、その結果を公表しました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/kaiji03_hh_000199.html

●「地域公共交通利便増進事業」の実施計画を認定 ～利便性・持続可能性の高い地域公共交通を目指して～【東北運輸局】

東北運輸局は、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、五所川原市、いわき市において「地域公共交通利便増進実施計画」を認定しました。本計画の認定により、運行費に関する補助要件の緩和・重点的な支援など、計画に位置付けられた取組みについて様々な国の支援を受けることができます。

五所川原市では、市が主体となって公共ライドシェアを実施しています。運行業務は地元の商工会が担うことで地域内交通網を維持し、AI による予約・配車システムの導入により利便性の向上を図ります。また路線が重複する藻川線とスクールバスを統合し、輸送体系の効率化を図ることで持続可能で利便性の高い路線を形成します。

いわき市では、市内 4 エリアを運行している広域バス路線ネットワークについて、利用状況に応じた重複区間の分割・集約を行うとともに、等間隔ダイヤの設定による最大待ち時間の短縮を行い、公共交通の利便性の向上と運行の効率化を図ります。

<https://www.tbmilit.go.jp/tohoku/content/000343921.pdf>

●「持続可能な地域公共交通の推進に向けた連携協定」を締結しました【安平町、CICAC】

安平町と株式会社 CICAC は、デマンドバスやハイヤーをはじめとした移動のセーフティネット確保及び充実を図るため、2025 年 3 月 5 日に「持続可能な地域公共交通の推進に向けた連携協定」を締結しました。

持続可能な公共交通の実現のためには、地域住民の「おでかけの円滑化」を図り、利用促進と需要拡大する必要があります。また、高齢化が進む地域ではドアツードアの移動サービスの重要性が高く、これを担うデマンドバスやハイヤーの利便性向上と安定供給が必要となり

ます。「人口 1 万人未満の小規模自治体における現在にも未来にも対応できるシェアシステムの共同開発」など、地域公共交通の活性化を目指した取組みを進めます。

<https://www.town.abira.lg.jp/oshirase/8/19153>

●AI オンデマンド交通「のーと玄海」本格運行開始【玄海町、ネクスト・モビリティ】

玄海町では、実証運行していた AI オンデマンド交通「のーと玄海」が、3 月 1 日より本格運行に移行されました。

2025 年 4 月 1 日からは、コミュニティバスの運行終了に伴い運行台数の増便を行うほか、唐津市街等から町内の北西エリアへの高校生の帰宅利用を想定し、「金の手(まいづる 9)」から 18～20 時台に路線バスに接続して出発する 3 便の“発車時刻固定”運行を行います。このエリアは 2024 年春に路線バスが系統廃止となったため、「のーと」でその代替を担います。

<https://www.next-mobility.co.jp/post/genkai>

●「横浜市シェアサイクル事業の実施に向けた協働事業」の協定を締結【横浜市、ドコモ・バイクシェア、OpenStreet】

株式会社ドコモ・バイクシェアと、OpenStreet 株式会社は、横浜市と「横浜市シェアサイクル事業の実施に向けた協働事業」の協定を締結しました。本事業の協定締結により、横浜市全域でドコモ・バイクシェアと OpenStreet がそれぞれ提供する電動アシスト自転車を双方のポートで利用・返却できる「ポートの共同利用」が実現します。

共同ポート化は、横浜市の公有地サイクルポートから実施していく予定です。開始は 2025 年度前半を予定しています。

https://www.d-bikeshare.com/news/detail/20250228_1

●AI や自動運転などを活用した「交通・環境課題解決へ向けた技術実証実験に関する共同研究契約」を締結【芳賀町、本田技研】

芳賀町と株式会社本田技術研究所は、AI や自動運転などの先進技術を活用したモビリティの実現や、それらを活用した地方都市の交通課題の解決を目指し、「交通・環境課題解決へ向けた技術実証実験に関する共同研究契約」を締結しました。

芳賀町と Honda は、共同で地方都市における交通・環境課題の分析を行います。Honda は、人と分かり合える Honda 独自の協調人工知能「Honda CI」を搭載したモビリティの実用化を目指し、「CI 運転支援システム」や「地図レス協調運転技術」の技術実証実験を行います。一方、芳賀町は、課題に対する解決策の検討や技術実証実験に必要なフィールドの提供に加え、官公庁との交渉およびその支援などを行います。

https://global.honda/jp/topics/2025/c_2025-03-12.html

●EV を活用し脱炭素化実現と災害に強い持続可能なまちづくりに向け共創【輪之内町、日産、岐阜日産、ヨロズ、YSMC】

輪之内町と株式会社ヨロズ、株式会社ヨロズサステナブルマニュファクチャリングセンター、日産自動車株式会社および岐阜日産自動車株式会社の 5 者は、脱炭素化及び強靱化実現に向けて EV を活用していく、「電気自動車を活用した脱炭素化及び強靱化に関する連携協定」を締結しました。

EV 普及促進やイベント時の連携、次世代向け環境教育、災害時における非常用電源としての EV 活用等の取組み内容が挙げられています。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/250317-01-j>

●全国初のライドシェアドライバーによる貨客混載実証事業を開始しました【加賀市、Uber Japan、日本郵便】

加賀市は、日本郵便株式会社及び Uber Japan 株式会社とともに、日本初となる公共ライドシェアドライバーによる貨客混載の実証事業を開始することを発表しました。本事業は国土交通省の「ドライバーシェア推進協議会」の方針に沿ったものであり、2025 年 3 月より実証を開始しています。

今回の実証事業では、ライドシェアのドライバーが、乗客の配車リクエストを待つ間に日本郵便の「ゆうパック」を配達します。これにより、ライドシェアドライバーの収入向上やライドシェア供給の安定化、日本郵便の配達リソースの確保といった効果が期待されます。

https://www.city.kaga.ishikawa.jp/senryaku_tokku/about_us/News/13422.html

●大阪・関西万博の会場にドコモ・バイクシェアのサイクルポートを設置【ドコモ・バイクシェア】

株式会社ドコモ・バイクシェアは、HUBchari・大阪バイクシェア連合体として、2025 年日本国際博覧会の会場へのシェアサイクルポートの設置事業者候補に決定しました。

大阪・関西万博会期中は、来場者にとって便利なアクセス手段として自転車の利用が見込まれていることから、夢洲自転車駐車場内に 60m²、約 50 台分のポートを設置します。

<https://www.d-bikeshare.com/news/detail/20250228>

●「シェア乗りタクシー」に新機能『新幹線タクシー予約』を搭載 ～ターミナル駅を起点にした二次交通も担うための「シェア乗りタクシー」のサービスアップデート～【NearMe】

株式会社 NearMe は、「シェア乗りタクシー」を展開しているエリアに位置する、新幹線の沿線 7 駅とその周辺の都市部を結ぶ UX 向上のためのサービスをアップデートし、ユーザーがシェア乗りか貸切かも選択できる設計にしました。

これまでは全国 16 の空港と空港周辺の都市部で利用可能でしたが、追加で新幹線沿線 7 駅でも利用できます。またシェア乗りを希望すると、料金が最大 50%オフとなります。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000174.000031733.html>

●進化したドライバーレス自動運転実験車の走行を公開 ～モビリティサービスの事業化に向けて推進を加速～【日産】

日産自動車株式会社は、日本におけるモビリティサービスの開始に向けて、運転席が無人の状態での走行を横浜市みなとみらい地区で公開しました。

今回の「セレナ」をベースにした実験車両では、従来の実験車両「リーフ」に対して性能が向上したカメラ、レーダー、ライダーを採用しています。また AI を活用した車外環境の認識や行動予測による判断と制御機能が進化し、よりスムーズな走行が可能です。ルート上で遭遇するさまざまなシーンを検証するとともに、冗長性をもたせたシステム構成とし、異常時の即時停車機能を持たせています。これにより、車内に運転者がいない状況においても安全性が確保されています。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/250310-01-j>

●西新宿エリアの回遊性と利便性向上に向け、「自動運転車とマルチモーダル経路検索サービスの連携によるワンストップ予約」実証実験を実施【新宿副都心エリア環境改善委員会、ジョルダン、三菱電機】

(一社)新宿副都心エリア環境改善委員会、ジョルダン株式会社、三菱電機株式会社は、2025 年 3 月 14 日に国内で初めて自動運転車とマルチモーダル経路検索サービスの連携によるワンストップ予約の実証実験を実施しました。

本実証実験では、ジョルダンが提供する全国対応のマルチモーダル経路検索エンジンに自動運転車の運行スケジュールを収録することで、乗換案内アプリの経路検索結果に自動運転車の運行便が表示されます。運行管制システムとの連携 API 構築により、アプリで案内する検索結果画面から自動運転車の予約がワンストップで可能となります。

https://www.jorudan.co.jp/company/data/press/2025/20250226_nishishinjuku.html

●次世代交通システムの実用化に関する連携協定を締結しました ～交通渋滞や移動手段の脱炭素化などの社会課題解決に向けた取組みを推進～【Zip Infrastructure、九州電力】

Zip Infrastructure 株式会社と九州電力株式会社は、Zip Infrastructure が開発中の次世代交通システムについて、都市型交通としての利用が期待されることから、その実用化に向けた取組み等を進め、交通渋滞や移動手段不足、脱炭素化などの社会課題解決を図ることを目的とした連携協定を、2 月 25 日に締結しました。

https://zip-infra.co.jp/img/document/pressrelease_20250225.pdf

●鉄道ネットワークを活用した荷物輸送サービス「はこビュン」を事業化し様々な社会課題解決に貢献します ～新幹線荷物専用車両による高速・大口輸送を実現します～【JR 東日本】

JR 東日本グループは、営業列車の客室や荷物輸送専用車両を活用した大口荷物の定期輸送サービスを開始します。2025 年 4 月 18 日から新青森・東京間で客室を使用した車

両貸輸送を開始することに加え、E3 系新幹線 1 編成の全号車を荷物輸送専用車両として改造に着手し、2025 年秋には車両基地を活用した盛岡・東京間での輸送を開始します。

これまで、主に始発終着駅間かつ列車限定での輸送を行っていましたが、今後、途中駅での取り扱いも含め新幹線全列車に対象を拡大し、大口輸送に関しては東北エリアから首都圏へ土休日を除く毎日輸送を行います。また秋田・山形・上越新幹線など各方面、そして特急電車等を含め「はこビュン」ネットワークを拡大し、輸送サービスを展開します。

https://www.jreast.co.jp/press/2024/20250304_ho02.pdf

●自動運転トラック実証実験向け合流支援情報提供システムを納入 ～本線の車両走行情報をセンサーで加速車線の前段階から提供、安全・円滑な合流を支援～【国土交通省、国総研、NEXCO 中日本、三菱重工、MHI-MS】

三菱重工業株式会社と三菱重工グループの三菱重工機械システム株式会社は、国土交通省道路局、国土技術政策総合研究所および中日本高速道路株式会社が 3 月 3 日から新東名高速道路(駿河湾沼津 SA～浜松 SA)で実施する国内初となる自動運転トラックの実証実験に参画します。

MHI-MS は、本実証実験向けに合流支援情報を提供する「合流支援情報提供システム」を開発・納入しました。同システムにより、自動運転トラックは本線の車両走行状況を加速車線に達するかなり前から把握できるため、余裕をもって速度を調整でき、安全で円滑な合流が可能になります。

<https://www.mhi.com/jp/news/250303.html>

●自動運転 2.0 の実現に向けて Plus と提携 ～トラック領域の自動運転レベル 4 から協業開始～【ティアフォー、Plus】

株式会社ティアフォーは、End-to-End AI を活用した自動運転システムの開発を手掛ける Plus 社と提携しました。両社は共同で、従来よりも広範な運行設計領域の定義が可能な次世代の自動運転システムの開発に取り組みます。また、その成果を活用し、自動車業界全体にとって有益なオープンデータセットの構築にも貢献します。

https://tier4.jp/media/detail/?sys_id=7obhgNg8Rq7GEIm2kcxalH&category=NEWS

●自動運転トラックによる菓子、加工食品の幹線輸送の共同検証開始 ～おいしさを自動運転で届ける！菓子と加工食品のプロジェクト～【江崎グリコ、キューピー、キューソー流通システム、T2】

江崎グリコ株式会社とキューピー株式会社と株式会社キューソー流通システムと株式会社 T2 は、2025 年 7 月から、株式会社 T2 が開発した自動運転トラックを用いた幹線輸送の実証実験を、関東・関西間の高速道路一部区間で実施します。

本実証は、将来に向けレベル 4 自動運転トラックを活用する上で最も効果的な輸送オペレーションの構築を検討することを目的としており、レベル 2 自動運転トラックを使用します。積載物として、ドレッシング類とポッキー等の菓子類を想定しています。

<https://t2.auto/news/2025/0220.pdf>

●完全 CO₂ フリーの医薬品輸送の電動化を推進【三菱倉庫、三菱商事、ユアスタンド】

三菱倉庫株式会社、三菱商事株式会社、ユアスタンド株式会社の 3 社は、DP ネットワーク株式会社が実施する医薬品輸配送業務の CO₂ 排出量削減に向け、2025 年 3 月より中型 EV トラックを導入し、完全 CO₂ フリーを目指した電動化を進めます。

三菱倉庫の埼玉・三郷地区の拠点に EV 充電設備を設置するとともに、三菱ふそうトラック・バス株式会社製「eCanter」を 1 台導入し、3 月から納品先への輸配送業務を開始しています。

https://www.mitsubishi-logistics.co.jp/news/2025/20250221_01.html

●中部国際空港セントレアの制限区域内にて高精度 3 次元地図データ(HD マップ)を搭載した自動運転車両の実証実験を開始【ダイナミックマッププラットフォーム、中部国際空港、ティアフォー】

ダイナミックマッププラットフォーム株式会社と中部国際空港株式会社は、中部国際空港セントレアの制限区域内において、高精度 3 次元地図データを搭載した自動運転車両の実証実験を 2025 年 3 月 9 日から開始しました。

本実証実験では、株式会社ティアフォーが運行する自動運転 EV バス「Minibus」にダイナミックマッププラットフォームの HD マップを搭載し、中部国際空港セントレアの制限区域内にてトーイングトラクターおよび旅客バスを想定した 2 つのルートを実証レベル 2 相当で走行することで、HD マップによる基本走行の確認を実施します。ルートには航空機が駐機するためのスポットやサービスレーン等が含まれており、より実装時に近い環境での実証となります。空港内の交通ルールや空港特有の構造物等の情報が含まれる HD マップを活用することで、より安全かつ効率的な自動運転の実現が可能となります。

<https://www.dynamic-maps.co.jp/news/2025/0227.html>

●日ASEANグリーンシップ政府間会合・官民セミナーを開催しました ～ASEAN地域における低環境負荷船の普及を促進～【国土交通省】

国土交通省は、ASEAN 地域における低環境負荷船の普及促進のため、2025 年 2 月 27 日にフィリピン・マニラにおいて、日 ASEAN グリーンシップ政府間会合及び官民セミナーを開催しました。

国土交通省は ASEAN と連携し、ASEAN 地域における内航海運の環境負荷低減、脱炭素化等の促進を目的として、2019 年の日 ASEAN 交通大臣会合において「ASEAN 低環境負荷船普及戦略」を策定するとともに、当該戦略に基づいて各国の施策に係るイベント

リストの作成や、ベストプラクティスの共有等を行っています。政府間会合では、「ASEAN 低環境負荷船普及戦略」の進捗状況の確認と、同戦略の後継となる新戦略の策定に向けた議論が行われました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/kaiji05_hh_000291.html

2. イベント情報

●JR 志布志駅開業 100 周年記念イベント

日時:2025 年 3 月 30 日(日)9:45～15:00

場所:JR 志布志駅・多目的イベント広場・志布志市鉄道記念公園

主催:志布志市

<https://www.city.shibushi.lg.jp/soshiki/1/29123.html>

●常磐線旧線隧道探検ツアー

日時:2025 年 4 月 26 日(土)12:30～16:10

場所:桃内駅

主催:JR 東日本

https://www.jreast.co.jp/press/2024/mito/20250317_mt02.pdf

●グランシップトレインフェスタ 2025

日時:2025 年 5 月 17 日(土)10:00～17:00

18 日(日)10:00～15:30

場所:グランシップ全館(JR 東静岡駅南口隣接)

主催:(公財)静岡県文化財団、静岡県

<https://www.granship.or.jp/visitors/event/detail.php?id=3428>

●京急ファミリー鉄道フェスタ 2025

日時:2025 年 5 月 18 日(日)10:00～16:00

場所:京浜急行電鉄(株)久里浜工場

主催:京浜急行電鉄(株)

<https://www.keikyu.co.jp/cp/festa2025/>

3. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

https://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<https://mm-education.jp/mailmagazine.html>

- グリーンスローモビリティに関する情報を掲載しています！

https://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/gsm_top.html

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<https://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<https://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomor.jp(担当: 岡本)

発行: 環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<https://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <https://www.estfukyu.jp/>